

平成26年度

研究紀要

研究主題

キャリア発達支援の視点による
小中高12年間を見通した学習活動の充実改善
(一年次)

ごあいさつ

本校は、昨年度創立 50 周年を迎え、学校の歴史において節目の年となりました。創立 50 周年記念事業にご支援いただきました皆様には、あらためましてお礼申し上げます。今年度からは、これまでの伝統と蓄積を大切にしつつ、新たな 1 ページを始める気持ちで臨んでまいります。

さて、本校では、これまでの研究成果を引き継ぎつつ、平成 25 年度からはさらにキャリア発達支援の視点を取り入れ研究を進めてきました。昨年度は「キャリア教育の視点からの教育課程を小中高 3 学部の学習内容の一貫性、系統性、関連性の側面から再考する」というテーマで、文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の委託を受けました。また、本年度は「キャリア発達支援の視点による、小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」というテーマで、文部科学省の「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の委託を受けました。今年度より 3 年間の予定で研究を進めております。

研究テーマのキーワードである「キャリア」は「進路」「就労」と捉えられることが多いのですが、それだけでなく「生涯」「一生の行路」等の意味もあります。キャリア教育は、児童生徒の生涯発達のプロセスを射程に入れる幅広く包括的な概念です。人は、生涯において、周りの人々と関わり合い、支え合いながら、職業生活、家庭生活、市民生活などさまざまな立場や役割を遂行し、能力や個性を發揮して自分らしく生きていくことをめざしています。キャリア発達支援の視点を取り入れることで、児童生徒の生涯を視野に入れ、学校から社会への移行をどう支えるか、そのためにはどのような能力を育てる必要があるか、また小学部から高等部までの 12 年間の学びをどのように設定し、カリキュラムを開発したらよいかなどについて、あらためてこれまでの教育実践や研究を再検討することができました。

今年度はこれまで以上に、多くの関連機関の皆様にご指導やご助言をいただき研修を積んでまいりました。また、小学部・中学部・高等部の学部間の垣根を越えた取り組みや連携に努めてまいりました。しかし、本研究テーマ 1 年目の今年は道半ばで、まだまだ発展途上にあります。教育研究会参加者ならびに本研究紀要をご高覧の皆様には、忌憚のないご意見やご示唆をいただけましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、本校の研究にご指導、ご助言をいただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。

校長 綿引 伴子